

沖縄21世紀ビジョン

基本計画と実施計画

沖縄21世紀ビジョンの
情報が満載。



<http://www.21okinawa.com>



目指すべき20年後の沖縄へ
県民みんなが進める、新しい沖縄の設計図

ビジョン

基本計画

実施計画

★ 沖縄 21世紀ビジョン及び基本計画と 実施計画の関係

「ビジョン」は
目指すべき沖縄の20年後の姿
「基本計画」と「実施計画」は
ビジョンを実現するための設計図



「新しい沖縄づくり」10のポイント



1 「沖縄21世紀ビジョン」「基本計画」「実施計画」で構成します。

2 県民全体で共有する沖縄の将来像です。

3 沖縄のあるべき姿、ありたい姿として「5つの将来像」を示しています。

4 沖縄が克服しなければならぬ「4つの固有課題」を示しています。

5 県が主体的に策定する初めての総合計画です。本計画は、沖縄振興特別措置法に基づく沖縄振興計画としての性格を持ちます。沖縄振興特別措置法において拡充された特別措置制度や、自由度の高い沖縄振興（一括）交付金制度を生かし、自らの責任や創意工夫による施策展開を図ります。

6 ビジョンの実現のために取り組むべき基本施策を示しています。本計画は沖縄県の施策の基本となるものであり、国、市町村においても尊重されるべきものです。また、県民をはじめ企業、団体、NPOなどの各主体の自発的な活動の指針となります。

7 優しい社会と強い経済の好循環関係を構築します。

8 平成33年度における沖縄の人口及び社会経済の展望値を示しています。

9 基本計画を推進するため、具体的な取組や、取組により得られる効果を表す成果指標を示しています。

10 Plan Do Check Action 計画・実施・評価・改善(PDCA)サイクルを確立し、計画を検証し効果的に推進します。

沖縄 21世紀
ビジョン

沖縄 21世紀ビジョン
基本計画
(10年計画)

沖縄 21世紀ビジョン
実施計画
(5年計画)

★沖縄21世紀ビジョン及び基本計画と実施計画の内容

沖縄21世紀ビジョン

平成22年
3月策定

県民が望む将来(2030年を目的)の沖縄の姿と、その実現に向けた取組の方向性等を明らかにした基本構想です。
“時代を切り拓き、世界と交流し、ともに支え合う平和で豊かな「美ら島」おきなわ”をめざします。

県民が望む将来像

目指すべき将来の姿 1

沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にします

- 多様な生物、亜熱帯の花や緑が島の美しさを引き立てる、自然に囲まれた沖縄
- 暮らしの中に息づいている伝統文化・行事などが世界中で活躍するウチナーンチュの誇りの源となっている沖縄

目指すべき将来の姿 2

心豊かで、安全・安心に暮らせる島

- ユイマールなど「沖縄の心」が受け継がれ、人の和、地域の和を大切にしている沖縄
- 地域社会の一体感を醸成し、共創・共創型の安全・安心な社会が実現している沖縄
- 性別、年齢、障害の有無に関係なく、あらゆる場所で活躍できる沖縄

目指すべき将来の姿 3

希望と活力にあふれる豊かな島

- 日本とアジア・太平洋地域との架け橋として交通ネットワークが整備され、物流・情報・金融の拠点が形成されている沖縄
- 働く意欲と能力があればさびしい仕事が見つかる、安定した雇用環境が整備されている沖縄

目指すべき将来の姿 4

世界に開かれた交流と共生の島

- 地理的特性を生かして、ヒト・モノ・文化など多様な交流が盛んな沖縄
- 平和を尊ぶ「沖縄の心」が世界からも注目され、世界平和に関わる国際機関などの集積にもつながっている沖縄

目指すべき将来の姿 5

多様な能力を発揮し、未来を拓く島

- 「人材こそ最大の資源」との考えを共有している沖縄
- 学力や進学率など教育水準が高く、語学教育が充実している沖縄
- 県民一人ひとりが個性と能力を存分に発揮し、生きがいを実感し続けている沖縄

克服すべき沖縄の固有課題

固有の課題 1

大規模な基地返還とそれに伴う県土の再編
今後の大規模な基地返還跡地については、国の責任の下において適切な跡地利用が進められなければならない。

固有の課題 2

離島の新たな展開
離島が持つ遠隔性や狭小性は生活していく上で様々な難問を生み、人口流出や高齢化の要因となるなど、多くの課題があります。

固有の課題 3

海洋島しょ圏 沖縄を結ぶ交通ネットワークの構築
島々を結ぶ交通手段が海路・空路に限られ、そのコストが移動の大きな障害となっています。また公共交通の利便性向上などの課題を抱えています。

固有の課題 4

沖縄における地域主権と道州制のあり方
国と地方の関係が抜本的に転換する取組が進展する中、地域ごとは地域自ら考え、未来に対して自ら責任を持つ新たな地域制度の実現が求められています。

沖縄21世紀ビジョン基本計画(10年計画)

平成24年
5月策定

沖縄21世紀ビジョンの実現に向けた「基本方向」や「基本施策」などを明らかにしました。

- 本計画は「沖縄振興特別措置法」第4条第1項の規定に基づき「沖縄振興計画」としての性格を有します。
- 施策展開の効果的な推進のため、「2つの基軸」と「8つの枠組み」を設定しました。
- 基本計画では、
 - 5つの将来像ごとに体系化し、36の基本施策及び118の施策展開を示しました。
 - 克服すべき沖縄の固有課題の解決に向けた施策を示しました。
 - 県内各地域の個性や特長を伸ばすと共に、多彩な地域性が調和する県土づくりを目的に本県を5圏域に分類し、圏域ごとに取り組み施策を示しました。
 - 計画に位置づけた各施策が着実に効果的に実施された際の平成33年度の人口及び社会経済の姿を定量的に示す「社会経済展望値」を設定しました。



沖縄21世紀ビジョン実施計画(5年計画)

平成24年
9月策定

基本計画で掲げた各施策の具体的な取組を明らかにしました。

- 基本計画で示された基本施策の「目的」や「目標とする姿」を明示することにより、県民をはじめとした多様な主体の参画と協働を促します。
- 施策展開ごとに「主な課題」や「成果指標」を掲げるとともに、課題の解決に向けた具体的な取組を示しました。
- 克服すべき固有課題ごとの具体的な取組を示しました。
- 圏域ごとの具体的な取組を示しました。
- 「成果指標」を用いた施策効果の検証や、各施策に係る取組の進捗状況の確認などのPDCAサイクルを確立し、計画の着実な推進を図ります。



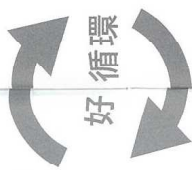
★5つの将来像を実現するための“2つの基軸”と“8つの枠組み”



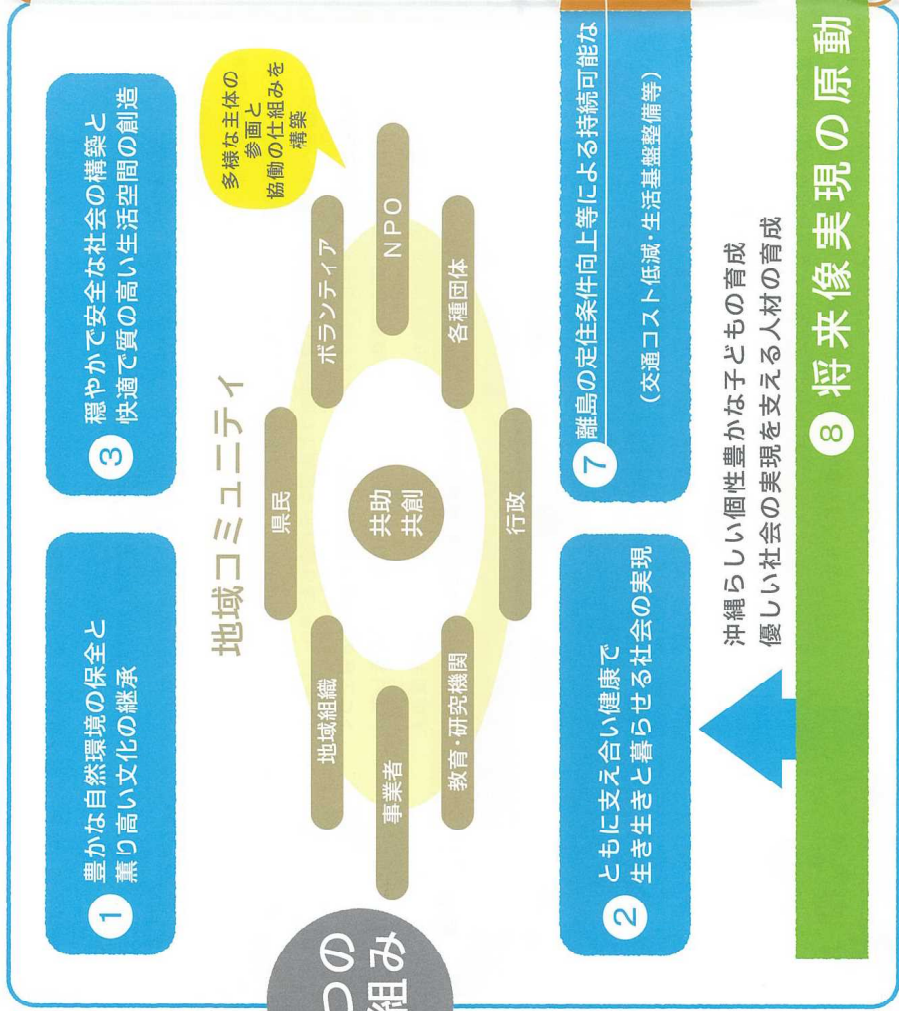
2つの基軸

基軸 1
潤いと活力をもたらす
沖縄らしい優しい社会の構築
(県民に安らぎと活力をもたらす、経済発展を支える)

基軸 2
日本と世界の架け橋となる
強くしなやかな自立型経済の構築
(経済発展により生み出された利益で優しい社会をつくる)



8つの枠組み



2つの基軸のもとに位置付けた8つの枠組みを
5つの将来像実現に向けた36

産業人材の育成・確保
沖縄の発展をリードする人づくり

施策連携のコンセプトとして横断的取組を推進
の基本施策を効果的に推進

★ 36 の基本施策

沖縄 21世紀ビジョンで目指す5つの将来像の実現に向けて、沖縄県等の取り組みを整理・体系化して、36の基本施策にまとめました。

将来像 I 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にす島(7)

自然環境の保全・再生・適正利用
持続可能な循環型社会の構築
伝統文化の保全・継承及び新たな文化の創造
文化産業の戦略的な創出・育成
人間優先のまちづくり

低炭素島しよ社会の実現



将来像 III 希望と活力にあふれる豊かな島(14)

自立型経済の構築に向けた基盤の整備

世界水準の観光リゾート地の形成

沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創出

情報通信関連産業の高度化・多様化を生かした農林水産業の振興

科学技術の振興と知的・産業クラスタの形成

将来像 II 心豊かで、安全・安心に暮らせる島(7)

健康福祉の充実
子育て世代の充実
健康・長寿おきなわの推進

米軍基地から派生する諸問題及び戦後処理問題の解決
社会リスクの軽減
社会福祉の充実

地域特性に応じた生活基盤の充実・強化



アジアと日本の架け橋となる国際物流拠点の形成

地域を支える中小企業等の振興

雇用対策と多様な人材の確保

駐留軍用地跡地の有効利用の推進



ものづくり産業の振興と地域ブランドの形成

離島の特色を生かした産業振興と新たな展開

離島における定住条件の整備

政策金融の活用

将来像 IV 世界に開かれた交流と共生の島(2)

世界との交流ネットワークの形成

国際協力・貢献活動の推進



将来像 V 多様な能力を発揮し、未来を拓く島(6)

沖繩らしい個性を持った人づくりの推進

公平な教育機会の享受に向けた環境整備
自ら学ぶ意欲を育む教育の充実

国際性と多様な能力を涵養する教育システムの構築

産業振興を担う人材の育成

地域社会を支える人材の育成

